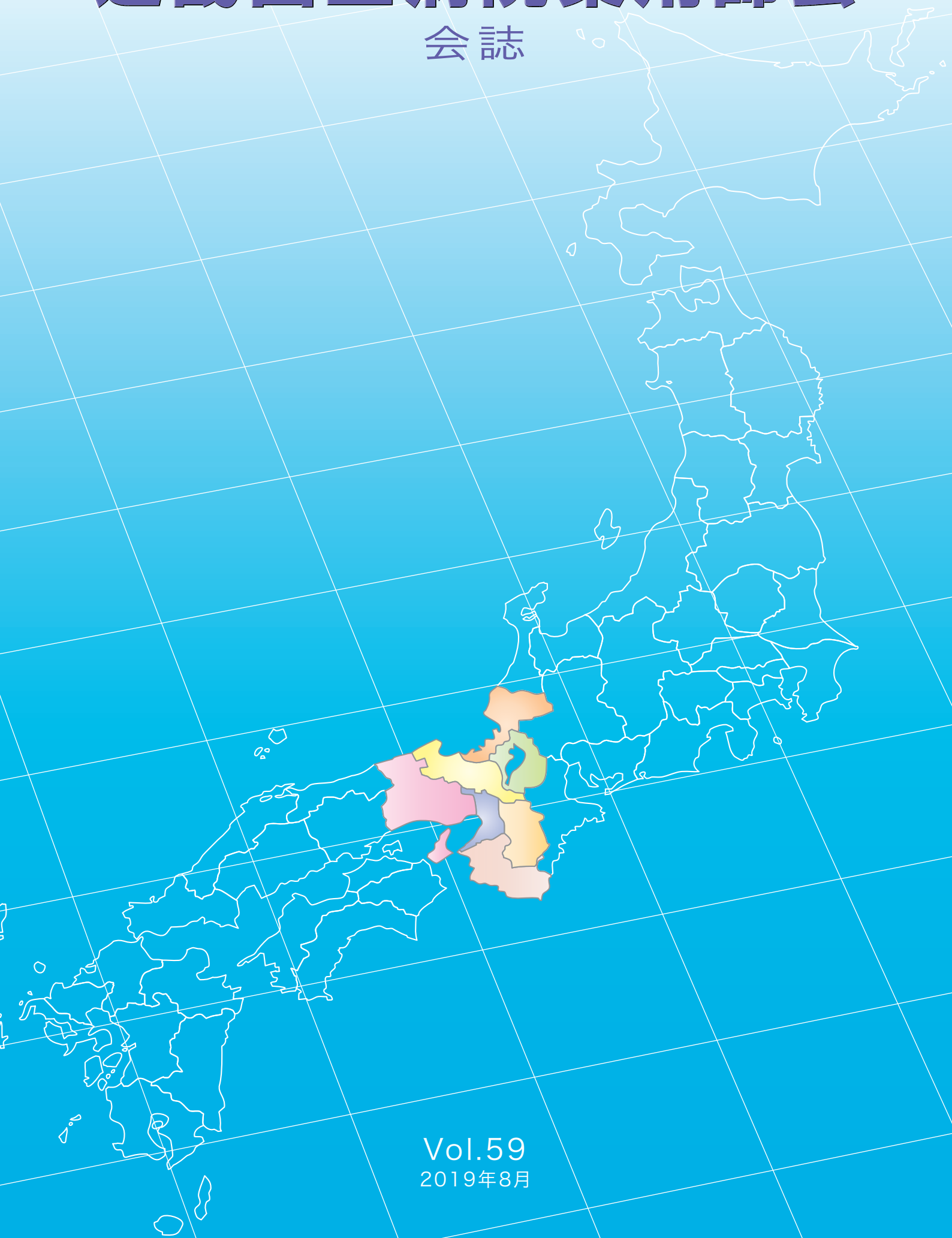


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.59
2019年8月

目次

提言.....	2
	あわら病院 鈴木 晴久
薬剤部紹介.....	3
	大阪医療センター 宮部 貴識
薬剤師の集いに参加して.....	7
	南和歌山病院 中田 賢
新任中間監督者研修に参加して.....	8
	舞鶴医療センター 中澤 誉
「令和元年 近畿国立病院薬剤師会主催生涯教育セミナー フィジカルアセスメント」に参加して.....	10
	京都医療センター 江島 怜那
趣味のページ.....	12
	南京都病院 桑原 明日香
編集後記.....	13

提言

～継続すること～

あわら病院 鈴木晴久

昭和 60 年 4 月 1 日付に国立病院 大阪南病院（現在の大阪南医療センター）に非常勤薬剤師として採用され翌年に常勤となりました。大阪南病院は、非常勤を含めて 10 年、宇多野病院に 7 年、刀根山病院（現在の大阪刀根山医療センター）に 10 年、滋賀病院から東近江総合医療センターに変わる 1 年 6 か月、宇多野病院に 5 年 6 か月と重複も含めて 7 施設に勤務したことになります。当時は、病院薬剤師の業務は、調剤業務が中心で、服薬指導や病棟業務、抗がん剤の無菌調製などは、ほとんど行われていませんでした。当時行われていた土曜日の半日勤務はなくなり、週休 2 日になりました。国の政策で医薬分業が推進され、外来の院外処方発行も実施されて、外来の調剤業務が中心だったのが、入院患者に対する服薬指導（薬剤管理指導業務）へとシフトしていきました。

さらに、薬学部が 6 年制になり実務実習生の受け入れ、病棟薬剤業務実施加算、医療費削減対策の後発品への切り替え推進等、様々な業務内容の体系が変化してきました。

調剤機器も進歩を遂げ、今やロボットが抗がん剤の無菌調製をして、散薬を秤量し、分包してしまう時代になりました。しかし、AI ロボットが我々薬剤師の仕事を奪ってしまうのかというとそんなことはありません。大事なことは、安心安全な医療の提供が、最新のテクノロジーを使ってできる仕組みを考え、それを薬剤師がうまく利用して、より良い医療を提供していくことにあります。

今年は元号が平成から令和に変わり、あわら病院は 5 月に 80 周年を迎えました。来年は東京 2020 オリンピック、パラリンピックの開催、4 年後には北陸新幹線延伸決定と新たな時代の幕開けです。いつの時代にも我々病院薬剤師が目指すことは、安心安全な医療の提供を基本とした日常業務の積み重ねです。継続は力なり。ともに、新時代への明るい未来のために近畿グループの各施設のそれぞれの地域にあった医療に貢献できるように頑張りましょう。

薬剤部紹介



新病棟完成 令和6年度（予定）

【概況】

大阪医療センターは、大阪城を間近に見ることができ、市の中心部を南北に走る上町台地の北端、難波宮跡に隣接する地に位置する。この地は明治初期に緒方洪庵の次男緒方曄順惟準が活躍した大坂病院があり、適塾の教えである「扶氏医戒之略」を要約した“正しく、品よく、心をこめて”の3つの言葉が職員に向けたモットーとなっている。

標榜診療科は39科で高度総合医療施設として国が提供する「政策医療」を行うべく、努めている。また、三大疾患であるがん・心臓病・脳卒中をはじめ、HIVや肝炎などの感染症、高度救命救急医療・災害医療等に幅広く取り組んでいる。

薬剤部は39名の薬剤師が在籍し、医療安全の向上と経済的な効率を勘案し、医師、看護師および多職種との協働を図りながら主体的に薬物療法に参画することで、医薬品の適正使用推進に日々努力している。病棟専任薬剤師は持参薬の確認、TDM、副作用のモニタリング、相談応需・処方支援、医薬品に係る医療安全の確保、医薬品の適正管理等において、チーム医療では組織横断的に多職種連携し薬学的支援に奮闘しているところである。

【薬剤部業務について】

薬剤部では、令和元年度の目標に「地域包括ケアシステムを考慮し、シームレスな薬物療法支援のスキームを確立するために退院時指導のさらなる充実と地域薬局との情報共有の充実を図る」とし、入院中の薬物療法の適正化と在宅療養での質の維持を目指し、持参薬から退院薬まで一連して関与する計画である。

1. 病棟薬剤業務

薬物療法を的確に行う上で薬物動態を勘案した投与設計や投与経路・速度の提案、副作用症状の早期発見等を目標として積極的な関与を実施している。

2. 抗癌薬・TPN製剤の無菌調製

良質な医薬品の供給を目的に、薬剤部注射薬室の無菌室において一元的に調製を実施し、抗癌薬に関しては全診療科を対象に月間約 1,600 件の無菌調製を行っている。薬剤部でレジメンチェックを行い安全管理の徹底を図っている。

3. 医薬品情報管理

病棟専任薬剤師と連携を図り、日々更新される医薬品情報を迅速かつ的確に医療従事者に報告するとともにプリアボイド事例、副作用及び有害事象の収集、医薬品・医療機器副作用の報告、医薬品副作用被害救済制度への支援を積極的に行っている。最も経済的で効果的な医薬品の推奨リスト（フォーミュラリー）の作成についても段階的に進めている。

4. 治験・臨床研究関連業務

GCP を遵守し盲検性の維持等を含めた適切な治験薬の保管、管理、調剤を行うと共に、被験者への治験薬投与が円滑かつ安全に行われるよう努めている。また受託研究審査委員会委員、臨床研究法に則った認定臨床研究審査委員会委員および治験事務局、IRB 事務局・認定臨床研究審査委員会事務局の事務局員として、院内外における治験・臨床研究の適切な実施の推進に協力している。

5. チーム医療

1) HIV チーム薬剤師

HIV 感染症患者への服薬支援を強化するため、担当薬剤師 3 名（専従 2 名、併任 1 名）を配置することで円滑な服薬支援体制を構築している。感染症内科外来に隣接した「お薬の相談室」を設置し、薬剤師が常駐することで患者動線の改善、医師・看護師との情報の共有化も実践している。また、後天性免疫不全症候群の患者を対象とした、緩和ケアチーム（PWA: (people with AIDS) サポートチーム）にも参画している。

2) 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) / 感染制御チーム (ICT) 薬剤師

AST に専従 1 名、ICT に薬剤師 2 名体制で業務を行っている。主な業務としては、院内サーベイランス、バンコマイシンなどの抗菌薬に関する血中濃度解析を行っている。当院での特徴的な業務は、院内サーベイランスのうち、カルバペネム系抗菌薬、タゾバクタム/ピペラシリン合剤に関して、全症例モニタリングを実施しており、医師と協働で不適切使用症例などへの介入を行っている。また、薬剤師は長期使用症例へのカルテ介入も行っている。この他にも、血液培養陽性症例への早期介入など、主に医師との協働で業務を行い、患者へ適切な治療が早期になされることを心掛けている。

3) 救命救急チーム・災害医療対策本部 (DMAT 薬剤師)

【救命救急チーム】

当院の救命救急センターは 3 次救急医療の一翼を担っており、外傷、熱傷、院外心肺停止、急性中毒など重症救急患者を診療している。入院前薬歴確認、投与設計、ルート管理など薬物療法支援を行うことで救急医療を支えている。

【災害医療対策部】

当院に災害医療対策部が設置され、薬剤師もその主要なメンバーとして参画している。日々、会議や訓練参加、研修計画を通じて信頼関係を構築している。

4) がん薬物療法チーム・ケアサポートチーム (緩和ケア) 薬剤師

【がん薬物療法チーム】

外来化学療法室に薬剤師が常駐し、病棟での化学療法と同様に治療法の説明や薬学的ケアの実践を行っている。医師、がん化学療法認定看護師と共に症例カンファレンスを行っている。

【ケアサポートチーム】

ケアサポートチームは、がん、心不全などの患者さんとそのご家族にかかわって支援活動を行う多職種で構成された緩和ケアチームである。チームでの情報共有のために、チームカンファレンス、全体回診、各病棟でのカンファレンスに参加している。

5) NST 薬剤師

NST は、嚥下困難などの患者を対象とする嚥下・内科チームとがん患者を対象とするがん・外科系チームの 2 チーム体制となっている。この体制によって栄養不良に繋がる症例により早期から係わることができ栄養の改善と在院日数の短縮を目標としている。

6. 専門・認定薬剤師の育成・研修受入体制の推進

薬剤師新人教育、専門・認定薬剤師の育成に取り組んでいる。また、薬学生長期実務実習生の受け入れも毎年全期を通じて行っている。

日本病院薬剤師会

- ・ HIV 感染症薬物療法認定薬剤師研修施設
- ・ がん薬物療法認定薬剤師研修施設

日本医療薬学会

- ・ 認定薬剤師研修施設
- ・ がん専門薬剤師研修施設
- ・ 薬物療法専門薬剤師研修施設

日本薬剤師研修センター

- ・ 小児薬物療法認定薬剤師研修施設
- ・ 薬局・病院実務研修受入施設



大阪医療センター薬剤部では、今後も患者様が安心して治療に専念できるよう診療体制の構築、医薬品にかかる医療安全に貢献していきます。

(文責 宮部貴識)

「薬剤師の集いに参加して」

南和歌山医療センター 中田賢

6月15日、16日に行われた薬剤師の集いに参加させていただきました。私はみなさんをお迎えする幹事団の一員として関わり、微力ながら荷物の搬入や会場のセッティング・受付などを手伝わせていただきました。本当にたくさんの方々の支えがあってこの会が成り立っているということを改めて感じた次第です。

初日には各小委員会が開催され、私はがん緩和・精神委員会に出席させていただきました。実際の症例を通して、麻薬の副作用発現時期やローテーション・使用方法など様々な内容を学ぶ事が出来ました。1班4～5人のグループディスカッション形式で、わからないところや疑問点なども発言しやすく、とても実りのある内容となりました。今回得た知識を基に、日々の業務に役立てることで患者さんに還元していきたいと考えています。

宴会では、1年目の薬剤師の先生方による余興で大いに盛り上がり、楽しい会となりました。それぞれ衣装・演出などアイデアに工夫が込められており、どのチームも素晴らしかったです。また、普段は顔を合わせる事のない他の病院の先生方とお話しする機会もあり、これまでの貴重な体験談などを聞くことができとても有意義な時間となりました。

今回、薬剤師の集いとしては2度目の参加となりましたが、前回と同様に他施設のたくさんの先生方と交流することができ、自施設だけでは得られなかった知識や情報を得ることができました。このように幅広く様々な年代の先生方とお話しすることができるのは、近畿国立病院薬剤師会の魅力であると思います。これからも自施設で研鑽を積みつつ、このような交流会や勉強会などを通して、さらに成長していきたいと考えています。

最後になりましたが、事前に企画・準備などをしてくださった先生方には厚く御礼申し上げます。またお会いできる日を楽しみにしております。



新任中間監督者研修に参加して

舞鶴医療センター 中澤 誉

開催日時 令和元年 7 月 3 日 (水) 9:30~17:15
令和元年 7 月 4 日 (木) 9:00~17:15
開催場所 大阪医療センター緊急災害医療棟 3 階 講堂
研修プログラム 「国立病院機構における病院経営について」
「中間監督者に求められるスキル」
参加者 104 名

1 日目は、開講式が行われた後、近畿グループの大久保 秀則運営指導係長より「国立病院機構における病院経営について」の講義がなされた。国立病院機構の理念から経営、CRS(企業の社会的責任)とは何かを学ぶことから始まり、国立病院機構の沿革、独立行政法人化を行ったメリットと平成 29 年度に至るまでの経営状況について経常収支及び黒字、赤字病院の推移のグラフを用いて説明された。経営のデータとしては改善傾向を示しており、その結果と理由について項目ごとに分けて説明された。また、経営改善の取り組み状況について、これまでの再生プラン、リスタートプラン、経営改善重点支援、平成 29 年以降の投資方針、経常収支の詳細と患者数の動向について、国立病院機構の経営課題より人件費や老朽化等の内部要因、交付金や増税等の外部要因について説明された。

そして国立病院機構の平成 30 年度の経営状況について、詳細なデータを用いた説明と再興に向けての目標について今年度も単年度黒字化を目指す旨が説明された。

具体的な数字と分かりやすいグラフにより、これまでの国立病院機構の取り組みと、これからを知る上で非常に有意義な講義となった。

1 日目の後半から 2 日目最後まで、外部講師として株式会社マイナビの 柴橋 学先生から「中間監督者に求められるスキル」としてグループワークを主とする講義が行われた。

1 日目は問題解決能力として早期発見、解決能力の向上を目的とした内容で「問題を見つける力」「問題を把握する力」のテーマでグループワークが行われた。問題を見つける力では問題をきちんと見つけることができているか、出来事・事実をそのまま問題として認識していないか確認することが重要であると学んだ。「問題を把握する力」では 2 人 1 組でペアとなり、目標・悩み事について互いにインタビューし、「目標」「障害」「中間目標」「行動」に分類し、聞き取りに関して相手の考えていることを正確に把握する練習が行われた。

2 日目は「周囲を巻き込むマネジメント力」として問題について伝える力を身に着けるため、まず自分自身が正確に理解できているか、理解できていないことに気づくための視点に

ついて学び、そして相手が考えていることをより適切な言葉で表現して誤解なく受け取ることが重要であると知ることができた。「説得力」として他者と協力する力を身に着ける講義では対立やジレンマになっている「行動」を特定し、「行動」「要望」に分け、「共通目標」を確認し、手段の見直し、解決策を探っていくことで、対立関係を解消し、協力できる可能性がある事を学んだ。

グループワークと講義を通して今後の業務においてのコミュニケーションおよび問題解決能力を向上するための方法を学んだ。今回の中間監督者研修で中間監督者としてのスキル向上だけでなく、他の施設の医療従事者との考えや業務の違いを知ることができた。そして研修を通して交流を深めることができ、とても有意義な研修であったと思います。

「令和元年 近畿国立病院薬剤師会主催生涯教育セミナー

フィジカルアセスメント」に参加して

京都医療センター 江島怜那

令和元年 5 月 18（土）にニプロ iMEP で開催された生涯教育セミナーに参加させて頂きました。

今回の生涯教育セミナーは薬剤師 1、2 年目を対象としたフィジカルアセスメントの体験型セミナーでした。はじめにバイタルサインとフィジカルアセスメントについての講義を受けた後、二人ずつのペアを組み、聴診器とアネロイド血圧計を用いた脈拍や血圧の測定、パルスオキシメーターを用いた動脈血酸素飽和度の測定を行いました。

上腕動脈にかけた圧を減圧しつつ聴診器でコロトコフ音を確認することは非常に難しく、周りの雑音がいかに測定の障害となるかを知ることができました。

次に、少人数のグループでフィジコを用いた呼吸音、心音、腸音の聴診を行いました。

フィジコはフィジカルアセスメント技術の向上を目指した専用シミュレーターであり、瞳孔反射、心電図、呼吸音、心音、脈診などから様々な患者の病態を触診、聴診することができます。

呼吸音の聴診では、正常な音を聞いた後、水泡音・捻髪音・笛音・いびき音の四種類の音の特徴を学び、クイズ形式で聞き分けられるかを確認しました。水泡音のプクプクとした音と、捻髪音のプチプチという音は共に膜がはじけるような音であり、聞き分けが難しいと感じました。



その後、血管にアクセスするデバイスとして、CV カテーテル、PICC カテーテル、植え込み型ポートの特徴を実際に手に持って学びました。また、カテーテルにはシングル・ダブル・トリプルルーメンがあり、それぞれの利点と欠点をカテーテルの断面を見ながら話し合い、実際に色つきの液体を通して輸液の流れを確認しました。さらに、部屋を移動した後、一人ずつ輸液のセットを体験しました。

小児用と成人用ポンプの滴下速度の違いや、血液の逆流を防ぐための三方活栓を用いた陽圧ロックの操作など、臨床の現場で日々用いられている器具を実際に扱うという貴重な体験をさせていただきました。

今回のセミナーを経て、バイタルサインの確認やフィジカルアセスメントを行うことは手軽で迅速に結果が得られる為、適切な薬物治療、副作用の早期発見に役立つと学ぶことができました。今後は実際の臨床現場で得られたバイタルサインに対してどのような評価をし、アプローチを行うべきか、様々な疾患を通して学び、医療者として薬剤師として行動できるよう精進していきたいと思います。

趣味のページ～誕生日会 in 敦賀～

南京都病院 桑原明日香

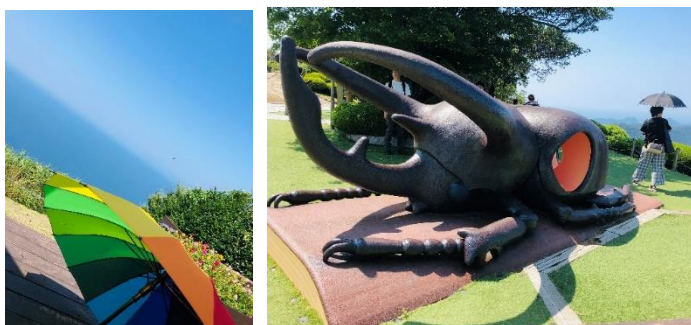
メロンが好物の敦賀医療センター山本先生からバトンを引き継ぎました。南京都病院の桑原明日香と申します。

趣味のページを書くにあたって、カメラや読書、身体を動かすことと意外と趣味が多いことに気付きました。そんな中でも今回は国立病院機構に入局してから欠かすことなく行っている、敦賀医療センターの山本先生と神戸医療センターの櫻井先生との8月お誕生日会についてお話したいと思います。

敦賀医療センターの山本先生が前回号にて末尾に記載していましたが、敦賀医療センターの山本先生と神戸医療センターの櫻井先生とわたしは、3人とも誕生日が8月ということで、入社1年目の時から毎年8月にお誕生日会を開催しています。プレゼントは3000円前後で、テーマは「今自分が欲しいもの」。毎年フェイスマスクやボディスクラブと、美容関係のプレゼントを頂いています。「今自分が欲しいもの」というテーマなので、プレゼント用と自分用と買う時もあります。そのため一気にお財布の中が寂しくなります。1～2年目は大阪にて開催していましたが、3年目になる今年は敦賀で開催しました。敦賀には美味しい食べ物や観光地が多く、この1ページでは語れません。イカ丼を食べる予定が売り切れていたの、必ずまた遊びに行こうと決意しています。

わたしのおすすめはレインボーラインです。レインボーラインはリフトに乗って山頂にあがり、敦賀の5つある湖を一望できる場所です。琵琶湖バレイの経営者と同じ人が経営者であると、梅を販売していたおばさまが教えてくれました。

下の写真のようなカラフルな傘や、大きいカブトムシと写真が撮れます。インスタ映えというやつですね。ぜひ皆さま一度行ってみてください。



お誕生日会についての話が、途中から敦賀についての話になってしまいましたが、お誕生日会の様子について知りたい方は3人の誰かに聞いてください。

次は大阪医療センターの足立先生にお願いしております。面白い先生ですのでわたしも今から次回号を楽しみにしております。よろしくお願いします。

編集後記

♪今号も多くの先生方に執筆のご協力を頂きました。ありがとうございました。頂いた原稿の中には、数年前に自分が参加した研修の報告などもあり、当時の研修との違いを知ることができ、色々と勉強になりました。

♪『薬剤部紹介』は毎回楽しみにしているテーマの一つです。かつて自分が勤務していた施設の今を知ることが出来たりしますし、みなさんも楽しみにしているテーマはありますか？

♪最後まで読んで頂きありがとうございます。東京 2020 オリンピック・パラリンピックまで、あと1年となりました。来年のオリンピックの事もあり、今は何かと酷暑についての話題が多いですが、暑さ、夏バテに負けずに頑張っていきましょう。

(R.O)

近畿国立病院薬剤師会会誌 第五十九号 令和元年8月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局 京都市伏見区深草向畑町 1-1

(独立行政法人国立病院機構京都医療センター薬剤部内)

発行人 会長 本田 芳久 (京都医療)

編集 広報担当理事 山下 大輔 (京都医療)

小田 亮介 (国立循環器病研究センター)

藤原 佐知子 (宇多野病院)

喜田 孝史 (京都医療)

中西 剛志 (姫路医療)